

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホーム さらさの家		
所在地	島根県出雲市東福町190-2		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果市町村受理日	平成22年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成22年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周囲は田畑に囲まれ、のどかで静かな環境にあり過ごしやすい。敷地内には、農園が隣接地域の人との交流が図りやすい。また利用者も作物を育てたり収穫する喜びが味わえる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成21年7月に開所して、1年経過グループホームである。周囲には田園風景が広がり、畑や田んぼが見えるので、利用者の方も馴染み深い景色の中で理念の通り、「こちよく、ゆったり」と過ごしておられる。農園を地域の人に無料で貸し出しをしており、そこからの交流も生まれている。家族のお見舞いや近所の理美容室への利用外出も日常的に支援がなされている。利用者がどんな生活を送りたいのか、職員は日々手探りしながらケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作り上げた理念を新規採用職員にも説明し、共有している。	「こちよく、ゆったりと、あなたらしく」の理念は、開所前3ヶ月の準備期間の間に、職員で話し合い出来上がったものである。職員会議やケア会議で話し合い、現場でも共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時にあいさつしたり、地区のコミセンの行事に参加したり、近所の理・美容院を利用するなどできるだけ地域に出かけるようにしている。地区の自治会に加入している。	自治会に加入し、地域の行事にも参加している。グループホームが所有している農園は、地域住民に無料で貸し出しをしており、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の敷地内にある畑に来られる方が、いつでも立ち寄りて頂ける様に声かけして、お茶に誘うなどして施設の中の雰囲気を感じてもらおう機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催して様子を報告することで、少しずつ理解が深まっていると思う。また行事の意見交換をすることで地域の中に参加する事ができるようになった。	定期的開催されており、民生委員や自治会協議会長、地区社会福祉協議会長等の出席もあり、そこでの話し合いや提案により、地域住民の認知症に対する理解も進み、地域行事への参加等、運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する事やケースについて相談し、アドバイスをいただいている。また運営推進会議で情報交換を行っている。	運営推進会議には、毎回出席してもらっている。他にも介護保険全般について、色々と連携をとる事が多く、地域住民からの誤解のクレーム対応にも協力してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。日ごろから身体拘束しないよう努めている。外部研修にも参加している。	玄関は施錠されておらず、利用者の方は草取りや花の水遣りに、自由に出入りされている。マニュアルも研修も伝達講習も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加が少ないので、今後学ぶ機会を持ちたい。地区の合同研修会に参加予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までに該当するケースはなかった。今後7月に外部研修に参加予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を時間をかけて説明し、同意を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会や運営推進会議への参加、面会時に話を聞く機会をもち意見を取り入れるようにしている。	家族会はまだ発足していないが、家族懇談会を開催したり、順番に運営推進会議に出席してもらったりしている。家族から頂いた意見については、持ち帰り、職員や法人全体で話し合い、運営に反映されている。法人も前向きに協力する姿勢が伺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケース検討時などに意見を聞くようにしている。また個別に意見を聞く機会を設けるようにしている。お互いにコミュニケーションが図れるよう取組中である。	会議の時よりも、日常の会話の中で意見や提案を聞く事が多く、抽出された意見は管理者から法人に、メール等で伝え、必要時には法人が直接説明や傾聴の機会を設けており、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度(人事考課制度)を適用し、年1回面接を行い、評価結果を処遇に反映する。介護職員処遇改善交付金の申請も行き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員・パートの分け隔てなく、職員の力量にあった研修の参加をすすめ、自己研鑽に努めている。研修に参加しやすいように、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会や勉強会に参加したり、他施設で実習研修をさせてもらうなど、日ごろから交流を図りながら情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込時に本人のおかれている状況、困っている事、入所理由を把握するようにしている。面接は必ず本人に会い、心身の状態や思いを聞き入所後安心して受け入れてもらえる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込や、面接をする中で、家族の思いや、これまでの経緯などをゆっくり聞き信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時や、面接時に状況を確認しながら、サービス利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を尊重するように努めているが、ともに支えあう関係作りができるように、今後取り組みたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月毎に利用者の様子を手紙で報告し、日々の様子の写真も同封している。また変わりがあればその都度電話で報告している。面会時には近況を伝え、主に自室でゆっくりとお茶を飲みながら関わりを持っていただいている。また外出や外泊、お見舞いなどを勧めたり、協力して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りに参加したり、自宅や近所への散歩、家族の見舞い、かかりつけの病院等を通じてこれまでの交流が続けられるよう支援している。	近所の方が訪問に着たり、家族の見舞いや面会に職員が付き添ったりしている。また、隣接する小規模に通ってくる知人や友人と楽しい時間を過ごせるように、支援している。また、地域行事への参加等も積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性が強い方が多く、人間関係が複雑だが、気の合う人同士の席にしたり、なるべく孤立せず利用者同士の関わりが持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当するケースはないが、今後あれば検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や、個別に関わる時間を持つようにし、思いを聞いたり、言葉や表情から真意を推し量っている。	利用者の方の希望に添ったケアをされている。日々の関わりの中で、本人の思いや意向を把握するよう努力されており、困難時には、本人の表情等で読み取り、本人本位で検討し、ケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、家族との日ごろの会話などから、これまでの利用者を把握するようにしている。全職員間での情報の共有に取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや行動、表情、発言からの心理面を考慮し、本人の全体像を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ケース会議などで職員の意見を聞くようにしている。	アセスメント、モニタリング共に作成されており、記録もされているが、職員全員での把握や関係者も含めたサービス担当者会議の開催までは至っていない。	ケア記録内のケアプランの実施記録が判り易いよう、記載方法を再度検討されると良いでしょう。ケアプランの見直し時や変更時には、本人や家族、必要関係者が参加できるサービス担当者会議の開催も検討されると良いと思います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化はケース記録に記入し、職員間の情報を共有している。勤務開始前の確認を徹底している。また個別記録をもとに介護計画の見直し、評価を行っている。より良い記録が出来るよう取り組んでいきたい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて通院介助や付き添いをしたり、家族の見舞いの支援をしている。外泊や自宅への外出ができるように支援している。また外泊時の状況に応じていつでも変更の受け入れが出来るように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのサロンやとんどさん、祭りなどの行事に参加している。また農園利用者との交流もしている。近所の利用者の家へ散歩したり、地域とのつながりを持つよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医や希望の医療機関に受診できるようにしている。必要に応じてかかりつけ医に毎月状態報告を書面にて行っている。協力医の他にも訪問診療を受けている。	協力医に無理に変える事はせず、入所前からのかかりつけ医に受診出来る様に支援・連携を行っている。また、協力医以外にも、往診をお願いし受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム併設の小規模多機能事業所の看護師に、その都度報告相談し対応している。医療ノートを作り看護職と連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、状態を観察した。退院前にはカンファレンスに参加し、サマリーを依頼し職員間で情報を共有し、退院後の生活に備えた。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を家族に説明している。今後看取りを希望しているケースもあり、状態に合わせて家族やかかりつけ医と話し合いを行い、支援に取り組みたい。	現在、入所者の一人の方がグループホームでのターミナルケアを希望しておられる。家族に対するホームのターミナルの指針を説明しているが、具体的な所までの話し合いや、医療関係者も含めた方針の共有、連携等についての準備はまだこれからである。	まず、ホームとしての指針を確立、家族や医療関係者も含めての話し合い・方針の共有、そして職員研修も必要と思います。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救急法の研修を行った。施設内では看護師に吸引や血圧触診法などの指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署をまじえ、併設の小規模多機能事業所との避難訓練・消火訓練、施設のみの避難訓練を行っている。運営推進会議で災害時の避難について話し、今後の協力を得ていく。	年2回の避難訓練が実施されている。備蓄はこれからである。	備蓄の準備をされると良いでしょう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者を尊重できるように取組中である。ミーティングや勉強会で意識向上を図り、日々の関わり方の中で対応を徹底したい。	職員は全体的に落ち着いた雰囲気の中で、ケアに従事し、プライバシーを損ねるような言動は伺えなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各部屋の掃除時や入浴時、訪室時にゆっくり話を聞く機会を持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調やペースに合わせて対応している。買い物や散歩など希望にそようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んでもらうようにしている。散髪はなじみの美容院や、近所の理髪店を利用している。お化粧される方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛り付けを行っているが、できる事はもっとしてもらいたい。検食や勤務に応じて一緒に食事をし、会話を楽しめるようにしている。畑で採れた野菜を使うようにしている。	ホームの畑で採れた野菜も使いながら、食事の準備は出来る者が出来る事を進んでされていた。食後も利用者が職員と一緒に片付けを行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて把握している。食べる量が少ない方には、好まれる物や個別の料理で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じて声かけや、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、トイレでの排泄を支援している。パットの種類も個別に対応している。	排泄パターン表により、支援が行われている。部屋にポータブルがあっても、本人希望に添いトイレ支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ、体操や散歩等に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人や家族の希望により入浴回数を決めている。なるべく家庭に近い生活をしてもらいたいとの考えから入浴は午後行っている。気分ののらない時は、翌日や調子のよい時に行っている。夜浴や寝る前足浴を行っていたが、現在は本人の希望にておこなっていない。	以前は夕方に入浴していた方もおられたが、現在では午後入浴希望が多い。男性の方は同性介助の配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や体調に応じて休んでもらっている。安眠できるよう夜足浴を試みたりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により指導を受け、理解に努めている。薬の説明書を服薬確認ファイルに綴っており、調べやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家での役割が続けられるよう、草取りや畑、洗濯たたみ、掃除など個々の好みやできる事に応じて対応している。日常生活の中でできる事を増やしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や外出をしている。家族の協力を得てお見舞いに行ったりもしている。今後は家族とともに出かける機会をもちたい。	グループホームの敷地も広く、周りの空き地もゆったりしている。畑等にも自由に出入りされている。買物は近くのスーパー等に希望時出かけて行く事も多い。近所の理美容室や家族のお見舞いなど、利用者個々の希望に添い日常的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、少額から自己管理できる金額を管理して外出時に使えるよう支援している。家族からの預かり金の方も、買い物支払いを本人にってもらう機会をもつようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。正月には手作りの年賀状を作り、家族等に送った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から調理の音やにおいが感じられるようにしている。壁飾りや季節の花、ホールや居室から見えるよう花を植えたり、畑の野菜を収穫することで、季節感を取り入れるようにしている。	共用の空間には、季節の花が飾られ、台所からは調理の匂いが漂ってきた。木造の内装は、居心地良く、田園からの風も入って涼しく、天井も高く、落ち着ける静かな共有空間づくりがされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを2つ置いており、テレビや雑誌を見たり、くつろげる場所になっている。廊下のベンチなど今後活用していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状態に合わせて、好みや馴染みの物を用意している。転倒予防にマットや畳を使用している。写真などを掲示しているが、今後工夫していきたい。	居室は畳みとフローリングがあり、こじんまりと整っていた。、ベットや家具は各自使い慣れたものを持ち込み、落ち着きのある、居心地良く過ごせるよう工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に目印をつけたり、トイレなどを表示しているが、今後生活しやすいよう取組中である。		